

# 授業改善プラン

地域名	東上総教育事務所	学校名	いすみ市立大原小学校
-----	----------	-----	------------

## 1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

- 本校の全国学力・学習状況調査の結果を分析すると、記述式の正答率が低いことが明らかになっている。特に、根拠となる理由を言葉や数を使って説明する力に課題がある。日常の学習からも、自分の思いや考えを表出することに抵抗があったり、適切な言葉が見つからなかったりする児童が多く見受けられる。そこで、自分の思いや考えを表出する手立てとして「ふきだし」を活用した授業に取り組み、自分の考えを進んで表出することができるようになってきている。しかしながら、「ふきだし」の内容に数学的な見方・考え方に迫る記述が少なく、ふきだしと振り返りの内容の関係性が薄いという課題が残った。

## 2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- 教師が指導の観点を明らかにし、意図的な発問をすることで、児童の書くふきだしの内容が数学的な見方・考え方に迫っていくものになるであろう。
- 児童にキーとなるふきだしを選択させ、ふきだしの内容を基に振り返らせる。その振り返りを次時の導入で取り上げ、意図的に学習のつながりをもたせたりすることで、学び続ける児童を育成することができるであろう。

## 3. 具体的な実践

- 本研究では、ふきだしを自分の考えを表出させるための手立てとしている。見通しの場面、自力解決の場面、比較検討の場面で自分の思いや考えをふきだしに記述させる。さらにふきだしは、自分の学習を振り返るための手立てにもなると考える。学習のまとめをした後、本時の自分の学習を振り返る時間を設定する。
- 令和3年度は、学校全体で振り返りの統一の視点「わっしょい」を合言葉にし、低・中・高学年ブロックで、児童に書かせたい振り返りの内容の具体化を図ってきた。今年度も、ふきだしや振り返りの取組を継続して行い、内容の質的向上を目指した。数学的な味方・考え方に迫る記述にするために教師が意図的に発問し、記述を全体で取り上げ評価していくことで、質を向上させていく。また、振り返りを書く際、キーとなるふきだしを選択させ、それを基に「わっしょい」の視点に沿って記述できるようにした。記述する時間の確保も意識して設定するようにした。

## 4. 成果

- 「わっしょい」を合言葉にすることで、児童は視点に沿って振り返りを書くことができるようになってきた。
- 児童にふきだしに書かせたい内容を明確にし、教師が意図的に発問をすることで、より数学的な見方・考え方に沿った記述が増えてきた。
- キーとなるふきだしを基に振り返りを書くことで、ふきだしと振り返りの内容に関連性をもたせることができた。また、次時に振り返りを取り上げることで、学習のつながりがもて、学び続ける児童の育成につながった。
- 学校全体で、授業の進め方を共通理解し、継続して取り組んでいくことで、児童も学習に見通しを持って取り組むことができ、記述時間の確保にもつながった。

### ◆担当指導主事から（東上総教育事務所 指導主事 鈴木 大）

- 教師が学習のねらいをもって意図的な発問をすることで、数学的な見方・考え方に沿ったふきだしの記述ができ、キーとなるふきだしによりつなげることができていた。また、学習のねらいに迫るキーとなるふきだしを基に活動を進めていくことで、各活動において記述する時間の確保等の効果的な活用を図る様子が見られた。
- キーとなるふきだしを基に振り返りを書かせることで、次時への学びの連続性を図ることができていた。
- 振り返りの視点「わっしょい」を基に日々継続して書かせることで、児童が自分の考えを進んで表出する姿が見られ、児童に記述の力を身に付けさせることができていた。